

科目名	ファーマドリル3			ナンバリング	PDR171	授業形態	演習
対象学年	4 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	山崎直毅	担当教員	山崎直毅○、片桐拓也、角田大、野原幸男、櫻井映子、渡邊義久、福地祐司、村田亮、田島裕久、江藤忠洋、林正彦				

授業の概要	2～3年次に学んだ教科を復習し、演習問題を解くことにより理解を深め、確実な知識として定着させる。						
到達目標	「薬剤師として必要な問題解決能力」の基盤を強固なものにする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	3年次まで学んできた専門教科を復習して授業に臨むこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
		4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1) 薬剤師として必要な基礎知識を有すること。 2) 薬剤師として必要な問題解決能力を発揮するために必要な学術理論・知識を有すること。	1) 薬剤師として必要な問題解決能力を有すること。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	期末試験終了後概ね1週間以内に正答案を4学年掲示板に掲出する。得点の確認や正答に関する疑義照会を行う。正答の変更、得点の変更は正答案掲示翌日と翌々日の2日限で、以後の訂正はしない。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	有機化学演習(山崎直毅)	[予習]ブルース上下巻の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ有機化学を復習し、更に深く理解することにより、有機化学に関する応用問題を解く。	4/11, 木-3限
	第2回	生化学演習(片桐拓也)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ生化学を復習し、更に深く理解することにより、生化学に関する応用問題を解くことができる。	4/11, 木-4限
	第3回	物理化学演習(角田大)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ物理化学を復習し、更に深く理解することにより、物理化学に関する応用問題を解くことができる。	4/12, 金-3限
	第4回	薬品分析学演習(野原幸男)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ薬品分析化学を復習し、更に深く理解することにより、薬品分析学に関する応用問題を解くことができる。	4/12, 金-4限
	第5回	衛生薬学演習(櫻井映子)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 3年次に学んだ衛生薬学(衛生系実習を含む)を復習し、更に深く理解する。その知識を実践的に応用し、衛生薬学に関する応用問題を解くことができる。	5/16, 木-3限
	第6回	物理薬剤・製剤学(渡邊義久)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ物理薬剤・製剤学を復習し、更に深く理解することにより、物理薬剤・製剤学に関する応用問題を解くことができる。	5/16, 木-4限
	第7回	薬物動態学(福地祐司)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ薬物動態学を復習し、更に深く理解することにより、薬物動態学に関する応用問題を解くことができる。	6/20, 木-3限
	第8回	実務(村田亮)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ実務を復習し、更に深く理解することにより、実務に関する応用問題を解くことができる。	6/27, 木-4限
	第9回	薬理学(田島裕久)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ薬理学を復習し、更に深く理解することにより、薬理学に関する応用問題を解くことができる。	7/4, 木-3限
	第10回	機能形態学(江藤忠洋)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ機能形態学を復習し、更に深く理解することにより、機能形態学に関する応用問題を解くことができる。	7/4, 木-4限
	第11回	薬物治療学1(林正彦)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ薬物治療学を復習し、更に深く理解することにより、薬物治療学に関する応用問題を解くことができる。	7/11 木-3限
	第12回	薬物治療学2(林正彦)	[予習]教科書の目次を通読し、不確実と思われる部分を精読。 2、3年次に学んだ薬物治療学を復習し、更に深く理解することにより、薬物治療学に関する応用問題を解くことができる。	7/11, 木-4限
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	7月25日(木)総括評価にて到達度を考査する。ルーブリックに従い、category1～3の評価項目の得点を累積し、60点以上を合格Cとする。その他、通常のA、B、C、Fの評定基準適用する。		
授業の進め方		演習と解説を行う。		
授業外学習の指示		演習前に各教科指定の方法で教科書を通読してください。演習後に不十分であった部分を自分で理解した上で、ノートに纏める復習をしてください。 (授業外学習時間: 毎週 135 分)		

教科書	特に定めない。担当教員の一部は講義内容を反映したプリントを配布する。
参考書	各教科指定教科書を参照する。
参考URLなど	なし
その他	(薬剤師として求められる基本資質)5 生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

ルーブリック「ファーマドリル3」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	薬剤師として必要な問題解決能力を有することを確認する設問 (category 1)／知識・理解／思考・判断	期末試験において100～60%の正答率、スコア33点	期末試験において59～30%の正答率、スコア20点	期末試験において30%未満の正答率、スコア0点
2	薬剤師として必要な問題解決能力を発揮するために必要な学術理論・知識を有することを確認する設問 (category 2)／知識・理解／思考・判断	期末試験において100～70%の正答率、スコア33点	期末試験において69～40%の正答率、スコア20点	期末試験において40%未満の正答率、スコア0点
3	薬剤師として必要な基礎知識を有することを確認する設問 (category 3)／知識・理解／思考・判断	期末試験において100～80%の正答率、スコア34点	期末試験において79～50%の正答率、スコア20点	期末試験において50%未満の正答率、スコア0点
4				
5				
6				
7				